

学校経営推進費 事業計画書

標記について、下記のとおり提出します。

1. 事業計画の概要

実施課程名	全日制の課程
取り組む課題	生徒の学力の充実
評価指標	・ プロジェクターを活用したアクティブ・ラーニング型授業を日常的に実施できる教員の養成と増加 ・ 「学校教育自己診断」における生徒の授業に対する評価の向上 ・ 民間外部テストでの成績向上、及び進路未定者割合と退学者割合の前年度比減少
計画名	Cutting edge! TAISHO Project!! (プロジェクター活用の組織的アクティブ・ラーニング型授業で、変わる生徒、変わる学校、変わる大阪)

2. 事業計画の具体的内容

学校経営計画の 中期的目標	1 加速度的に変化する社会の中で対応できる「資質・能力」の育成 (1)次期学習指導要領改訂を踏まえ「育成すべき資質・能力」を伸張させるための授業改善に取り組む。 ア. アクティブ・ラーニングの視点に立った深い学び・対話的な学び・主体的な学びを実現するための授業改善をすすめる。 イ. 「アクティブ・ラーニング研究チーム」を中心に授業改革につながる研究・実践をすすめ、評価方法の研究も含め授業改革の進展を図る。		
事業目標	①生徒の主体的学習時間を確保し、双方向の授業を実施・研究。プロジェクターを活用したアクティブ・ラーニング型授業を継続的かつ多様な教科で実施することで生徒の満足度を向上させる。そのために、教員のプロジェクターの使用率を3年後に100%にする。 ②外部産業の「基礎力診断テスト」を用いて、学力の定着度を分析し、指導・改善していく。 ③授業改革により、進路未定者や退学者の割合を減少させ、市民社会の一員としての自覚を持ち、意欲的に役割を果たそうとする姿勢を持った人材を輩出する。 ④上記の①～③を全校的、組織的に実施し3年後にAL型授業の組織的実施における府下でのトップランナーとなる。		
取組みの概要	導入・整備する 設備・物品	壁付け短焦点プロジェクター (16台)	
	取組内容	前年度	①AL研究チームの設立 ②産能大学小林昭文教授を招聘しアクティブ・ラーニング研修実施 (11月) ③関西大学黒上晴夫教授によるルーブリック評価の研修及びアドバイス (6月～) ④公開授業週間等での8教科によるAL型授業の研究授業実施 (11月) →リクルート社の「キャリアガイダンス 2月号」に掲載 ⑤AL自主学習会 (「サロンdeAL」) の実施
		初年度	①AL研究チームの拡大 (ICT機器研究班の設定) ②AL自主学習会 (「サロンdeAL」) での、ICT機器活用講座実施 (エプソンとの連携) ③産能大学小林昭文教授を招聘しアクティブ・ラーニング研修実施 (7月) AL型授業推進に向けてのアドバイザー ④関西大学黒上晴夫教授によるAL型授業の研修とルーブリック評価作成工房の実施、学校評議員としてのアドバイス (適宜) ⑤公開授業週間で20名の教員によるAL型授業の公開、研修 ⑥大阪府教育センターによるパッケージ研修Ⅱの実施 ⑦「基礎力診断テスト」の実施、分析 ⑧取組み内容に関する分析・改善点を検討 (1～2月)
		2年目	①AL研究チームの拡大 (前年度のICT機器研究班の研究結果を共有) ②AL自主学習会 (「サロンdeAL」) での、ICT機器活用講座実施 (エプソンとの連携継続) ③産能大学小林昭文教授を招聘しプロジェクターの活用についての研修、指導 (7月) ④関西大学黒上晴夫教授による授業設計研修の実施、学校評議員としてのアドバイス (適宜) ⑤公開授業週間で25名の教員によるAL型授業の公開、研修 ⑥「基礎力診断テスト」の実施、分析 ⑦取組み内容に関する分析・改善点を検討 (1～2月)
		3年目	①AL研究チームの拡大 (ICT機器研究班がタブレット端末などの活用研究) ②AL自主学習会 (「サロンdeAL」) での、ICT機器活用講座実施 (エプソンとの連携継続) ③産能大学小林昭文教授にAL型授業の見学、指導 (11月) ④関西大学黒上晴夫教授による授業設計研修の実施継続、学校評議員としてのアドバイス (適宜) ⑤公開授業週間で30名の教員によるAL型授業の公開、研修 ⑥「基礎力診断テスト」の実施、分析 ⑦取組み内容に関する分析・改善点を検討 (1～2月)
取組みの 主担・実施者	主担: AL研究チーム 実施者: 全教員		
成果の 評価 検証 方法	初年度	①AL研究チームメンバー20名以上。研究結果の分析、公表。 ②教員アンケートのプロジェクターの使用率50%以上。 ③学校教育自己診断: 授業満足度の前年度比向上 (「わかりやすい」75%→80%、「工夫している」76%→80%、「考え、発表する」74%→76%)。 ④「基礎力診断テスト」での成績向上者 (Cゾーン) の前年度比10%増加。 ⑤進路未定者15%以下、退学者20名以下。	
	2年目	①AL研究チームメンバー25名以上。研究結果の分析、公表。 ②教員アンケートのAL定期的実施率75%以上。 ③学校教育自己診断: 授業満足度の前年度比向上 (「わかりやすい」80%→83%、「工夫している」80%→83%、「考え、発表する」76%→80%)。 ④「基礎力診断テスト」での成績向上者 (Cゾーン) の前年度比10%増加。 ⑤進路未定者10%以下、退学者15名以下。	
	3年目	①AL研究チームメンバー25名以上。研究結果の分析、公表。 ②教員アンケートのAL定期的実施率100%。 ③学校教育自己診断: 授業満足度の前年度比向上 (「わかりやすい」83%→85%、「工夫している」83%→85%、「考え、発表する」80%→85%)。 ④「基礎力診断テスト」での成績向上者 (Cゾーン) の前年度比10%増加。 ⑤進路未定者5%以下、退学者10名以下。	

3. 事業費

事業費総額	5,646,672	円
-------	-----------	---

積算内訳

科目(節)	番号	内訳	1年目	2年目	3年目	単価	数量	金額
1 報償費	1							
	2							
	3							
								小計
2 旅費	1							
	2							
	3							
								小計
3 消耗需用費	1							
	2							
	3							
								小計
4 維持需用費	1							
	2							
	3							
								小計
5 役務費	1							
	2							
	3							
								小計
6 委託料	1							
	2							
	3							
								小計
7 使用料 及び賃借料	1							
	2							
	3							
								小計
8 備品購入費	1	電子黒板機能付き超短焦点プロジェクター				¥162,000	16	¥2,592,000
	2	壁掛け金具、インターフェースボックス、接続ケーブル				¥109,917	16	¥1,758,672
	3	設置費					1	¥1,296,000
								小計
9 工事請負費	1							
	2							
	3							
								小計
10 負担金・補助 及び交付金	1							
	2							
	3							
								小計
							合計	¥5,646,672